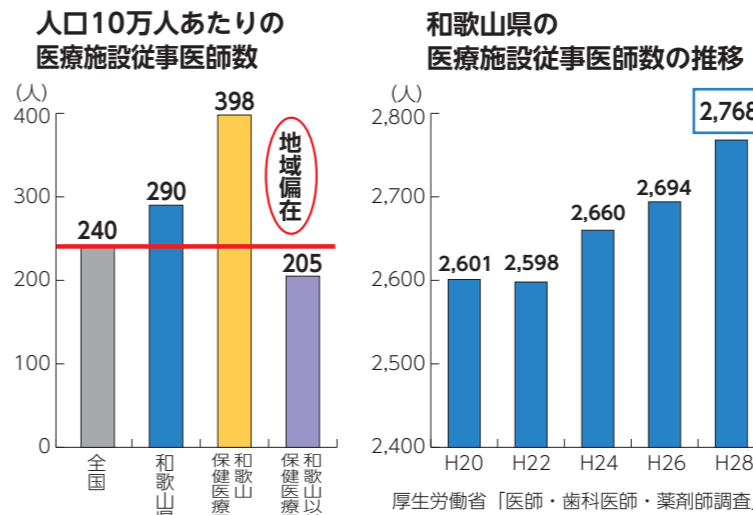


医師の育成と確保

医師の地域偏在の現状

和歌山県の医療施設従事医師数は平成28年12月現在、2,768人で、年々増加しており、人口10万人あたりでは290人(全国9位)と全国平均を上回っています。

しかし、約60%の医師が和歌山保健医療圏に集中しており、医師の地域偏在が課題となっています。



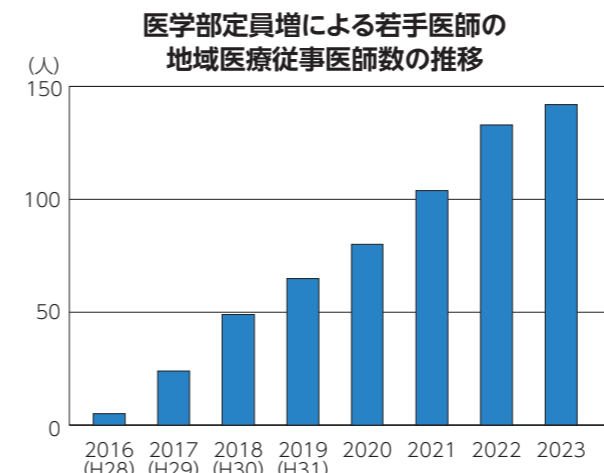
医師確保の取組

県では医師不足を抜本的に解消するため、国に粘り強く働きかけ、平成20年度以降、県立医科大学の入学定員を60人から100人に順次増員するとともに、近畿大学医学部に和歌山県地域枠定員を10人確保するなど、医師確保に取り組んできました。

県立医科大学の定員増のうち、県民医療枠・地域医療枠および近畿大学医学部和歌山県地域枠については、卒業9年間県内で勤務することを誓約のうえ入学しており、県内の中核病院やへき地医療拠点病院などで地域医療に従事し、医師としてのキャリア形成を行うことになっています。

また、平成23年4月には、県立医科大学内に地域医療支援センターを設置し、医学生や若手医師に対して、地域医療の魅力や特性の理解を目的に病院研修を実施するなど、地域医療従事医師の育成に取り組んでいます。

平成28年度以降、県民医療枠・地域医療枠卒業医師が初期臨床研修を終え、地域の医療機関で勤務し活躍しています。今後、順次増加していくこれらの医師を適正配置することで、地域偏在による医師不足の解消をめざします。



大学名	入学枠	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度~
県立医科大学医学部	一般枠	60人	60人	70人	70人	70人	70人
	県民医療枠	—	20人	20人	20人	20人	20人
	地域医療枠	—	5人	5人	10人	10人	10人
近畿大学医学部	和歌山県地域枠	—	—	—	5人	5人	10人

地域医療の理解を深める取組

地域医療支援センターでは、地域医療に携わる学生を対象に、へき地などの医療現場で診察に立ち会うなどの研修を実施しています。地域住民と触れ合うことで、地域医療への理解を深める取組を行っています。

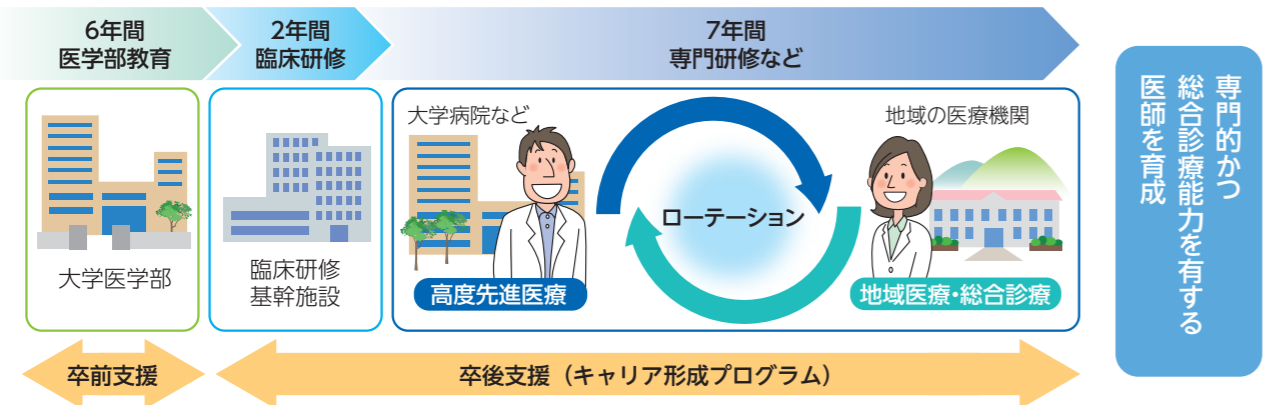


へき地診療所での病院実習



保健所実習(カンファレンス)

県では、卒業後の若手医師に対し、地域の医療機関と大学病院などをローテーションしながらキャリア形成できる環境づくりを行っています。地域医療と先進医療の両方を経験し、ステップアップできる仕組みを構築することで、優れた医師の育成と地域医療に従事する医師の確保を一体的に行っていきます。



専門的かつ総合診療能力を有する医師を育成

薬剤師の養成

和歌山県立医科大学 薬学部
2021年4月開学予定

和歌山県立医科大学は、和歌山県の医療の発展に寄与する優れた薬剤師を養成することを目的に薬学部を開学します。

育成する人材像

- 医療人としての総合的な知識、技能、態度を備えた指導的役割を果たす薬剤師
- 薬学の専門的知識を活かし医学と連携した研究を行う薬剤師

定員:収容定員600人
(入学定員100人)

修業年限:6年
(薬剤師国家試験受験資格有)

インタビュー

国保野上厚生総合病院 川端大輝医師 (県立医科大学 地域医療枠1期生)

地域の病院では救急で対応してから家に帰るまで診ることができ、退院してからも外来などで治療に最後まで関わられるのが地域医療の魅力だと思っています。

現在、県立医大地域医療枠卒業医師に対する制度で、へき地の診療支援を行っている国保野上厚生総合病院で勤務していますが、週に1日は県立医大で先進医療も学んでいます。地域医療と先進医療を交互に学ぶことができるこの制度は、さまざまな診療を経験できるので、自分のスキルアップやキャリア形成にもつながる有意義な制度だと思います。